

2 0 2 4 年度
第 1 0 回 理事会議事録

2 0 2 5 年 3 月 1 8 日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

2024年度 第10回理事会議事録

1. 日 時 2025年3月18日（火） 14:00～17:10

2. 場 所 全構協 第一会議室

3. 構 成 員 14名

4. 出席構成員 13名（別紙 出席者名簿参照）

5. 議 事 次 第

- (1) 開会の辞
- (2) 定足数確認報告（定款第36条）
- (3) 会長挨拶
- (4) 前回理事会議事録の確認
- (5) 審議事項
 - 第1号議案 2025年度 予算(案)承認の件
 - 第2号議案 永年勤続表彰対象者承認の件
- (6) 報告事項
 - 1) 委員会等活動状況報告
 - ① 運営委員会
 - ② 技術委員会
 - ③ 人づくり研修（研修実施状況）について
 - 2) AW 検定協会との意見交換会について
 - 3) 特定技能外国人材の受入事業を実施する民間団体について
 - 4) 青年部（全青会）との連携活動について
 - 5) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告
 - 6) その他（①管理者の届出関連 ②輸入鉄骨対応関連 ③その他）
- (7) その他の定例報告事項
 - 1) 構成員登録状況
 - 2) 着工面積と推計鉄骨需要量
 - 3) 2025年度主要会議日程
 - 4) 支部報告
- (8) 閉会の辞

6. 議 事 要 旨

(1) 開会の辞

進行役の小貫専務理事より開会する旨が告げられた。

(2) 定足数確認報告

小貫専務理事より、本理事会は竹原理事が欠席し 13 名の理事が出席されており、定款第 36 条（理事会の定足数）に基づく成立要件となる定足数が満たされていること、また、監事も 2 名全員に出席いただいていることが報告された。

尚、本理事会には、竹原理事（北海道支部）の代理出席者として登録されている北海道機械工業会鉄骨部会 成澤副部会長が代理出席した。

(3) 会長挨拶

永井会長より「理事の皆さんには、新年度に向けて様々な課題に取り組んでいただいている。一方、景気は一層厳しくなっており、何とか回復して欲しいと願っています。厳しい環境下ではありますが、皆さんと協力しながら乗り切っていきたいと考えていますので、引続きよろしく願いいたします。」との挨拶があった。

(4) 前回理事会議事録の確認

小貫専務理事が、2024 年度第 9 回理事会の要点を読み上げ、確認了承された。

(5) 審議事項

第 1 号議案：2025 年度 予算(案)承認の件

2025 年度 予算(案)承認の件について、議案書[理 24-10-議 1]（p3-6）にそって、下記内容が説明された。

- ・ 2024 年度予算は、品質管理責任者講習会の助成費用を反映し、経常増減として、約 2,000 万円のマイナスで策定した。
- ・ 2024 年度見込は、品質管理責任者講習会の助成費用を中心に差異が発生し、経常増減で約 600 万円プラス、対予算でプラス 2,600 万円と推定している。
尚、2024 年度に本講習会を受講し、誤って受講料を振り込んでしまった構成員について、2025 年に 2 人目の受講を行う場合は、1 社 1 名の受講料補助の原則に則り、補助を行う前提で進めることが確認された。
- ・ 2025 年度予算の策定については、足下の活動状況を反映し策定している。様々な委員会、WG の活動が本格化してきていることもあり、2024 年度比の活動水準は、やや高めになってきているが、通常の事業活動については、費用圧縮等を織込み、収支均衡を前提に策定した。
- ・ 一方、昨年から行っている品質管理責任者講習会の助成については、2025 年度も実施する前提であり約 3,100 万円の費用を織込んでいる。結果、2025 年度予算の経常増減は、品質管理責任者講習会の助成に関する費用分がマイナスとなる形

で、約 3,200 万円のマイナス計画となっている。
本案に対する意見、質問等はなく、原案通り承認された。

第 2 号議案：永年勤続表彰対象者承認の件

2025 年度 永年勤続表彰対象者承認の件について議案書（P7-10）により説明された。

2025 年度の表彰対象者は、各都道府県からご提出いただいた名簿を前提として整理し、役員 36 名、事務局 3 名の合計 39 名となった。

本議案に対する質問、意見等はなく、原案どおり承認された。

(6) 報告事項

1) 委員会等活動状況報告

① 運営委員会

運営委員会について、議案書（p12）に沿って、以下の内容が説明され確認された。

- ・ 2025 年度について「人づくり研修」を実施する方向であり、内容については今後詰めていく予定である。
- ・ 職場環境の改善に関する件、共済事業の今後に関する件については、引続き検討を行っていく。
- ・ 2025 年度の「人づくり研修」実施に向けて、開催場所の確保に関する協力要請が行われた。具体的には、明日 19 日以降各支部事務局宛てに依頼メールが発信される予定。

② 技術委員会

技術委員会について、議案書（p22-34）に沿って、岩永委員長より内容が説明され、確認された。

- ・ 溶接施工 WG の活動進捗について報告があった。
- ・ S 造化については、鉄連との協議を計画しており、4 月 16 日に実施予定。
- ・ 機械メーカー等との連携による生産性向上施策の検討については、ヒアリング調査で非常に多くの意見・要望がきている。今後の検討に向けて、提出された情報を、委員で分担して分類・整理していく。

③ 人づくり研修（研修実施状況）について

人づくり研修が全支部で開催されたことを踏まえ、9 支部分をまとめた形の実施状況が報告された。

2) AW 検定協会との意見交換会について

AW 検定協会との意見交換会について、第 2 回の内容について以下の説明があった。

- ・技術アドバイザーにもご協力をいただき、生産性向上、効率化に繋がる様な要望を AW 検定協会に対し提出し、具体的な意見の交換が出来た。
- ・2 月の理事会でも説明を行った「合同受験」については、全構協ファブへの周知を進めるという方向性が、AW 検定協会と共有化された。
合同受験は、受験方法の選択肢の一つとして周知することとした。
- ・AW 検定協会側から、試験体の改良・統合を検討している中で、協力の要請があった。

3) 特定技能外国人材の受入事業を実施する民間団体について

特定技能外国人材対応の民間組織設立に関する経産省からの情報について、配布資料に沿って説明があった。

- ・特定技能外国人材対応の民間組織設立については、前回理事会以降、理事候補団体、正会員候補団体、会費、賛助会員会費等の情報が経産省より提示された。
- ・今後のスケジュールとしては、4～5 月に正会員団体の入会受付開始、6 月に新団体の事業開始、7～9 月に事業者の入会受付開始という予定。
- ・3 月末頃に、受入れ企業向けの制度説明セミナーも予定されていることから、新団体設置関係の情報と合わせて、構成員に展開する必要がある。
- ・全構協が正会員として団体に加入する方向で進めることについて提案され、確認された。

4) 青年部（全青会）との連携活動について

全青会との連携活動について、3 月 10 日に行われた全青会三役との打合せ内容を踏まえ、事務局より説明が行われた。内容は以下の通り。

- ・2026 年度からの新しい体制と取組みに向けて、2025 年度にスケジュール感を持って活動する必要がある。具体的には、2025 年の 12 月までには、事業計画と予算に目処を立てる必要があり、事前のやり取りを考えると、本年 8 月頃には協議を開始する様なスケジュールになる。
- ・検討の体制として、全構協は担当理事と事務局担当を設置する必要がある、担当理事は板垣副会長にお願いすることとした。また、板垣副会長の補佐として、事務局にも担当を置くことが確認された。
- ・また会費の徴収については、透明性確保の観点から各県組合経由の方法に変更していくことが確認され、4 月の事務局長会議でも、あらためて協力要請を行っていくこととした。

5) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告

「代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告」について、議案書（p22）に
そって小貫専務理事より以下の説明があり、確認された。

- ・本年度 11 月から 3 月までの職務執行状況である。
- ・定例的な会議等のほか、賀詞交歓会、各支部会、周年行事等に参加した。
- ・特に、凶面問題に関しては、支部説明会、記者会見等を精力的に実施した。

6) その他

① 管理者の届出関連

管理責任者等の変更の届出の件について、本日、全鉄評と評価センターが
国交省を訪問し、打合せをおこなっている。管理責任者の欠格期間があった
場合の対応等について協議を行う予定。

永井会長より、本件は品質管理体制の維持・確保に関わる重要な問題であり、
適切に対応していく必要があるとの発言があった。

② 輸入鉄骨対応関連

輸入鉄骨対応について、以下の内容が確認された。

＜輸入鉄骨対応の背景・経緯と問題点＞

- ・輸入鉄骨対応については、2024 年度以降の取組むべき課題と位置付け、
執行部で調査・研究を行ってきた。
- ・調査・研究活動の一環として、鉄鋼メーカーとも意見交換を行ったが、
その中で、以下の内容が確認された。
 - i. 輸入鉄骨については、輸入に伴う固有のコストが取引において適切に
反映されず、国内市場に悪い影響を与えている可能性がある。
 - ii. 輸入鉄骨については、一部に重大な品質問題があるものが入ってきて
いる可能性があるが、その鉄骨に関して、国内ファブが不適切な形で
手直しを強いられているとの情報がある。
また、仮にゼネコン等の指示に基づき行った手直しの仕事であっても、
品質問題が発生した場合、ファブ側にも賠償等の責任が及ぶ可能性が
あるとのファブにとって厳しい見解もある。
 - iii. 輸入鉄骨問題について、通商（ダンピング）問題として対応していく
のは、数値での確認・整理という面で非常に高いハードルがある。
当面、品質の視点で問題を顕在化させ、世の中に訴えていくことに
したい。検討に際しては、鉄連、鉄建協とも連携して進めていく
ことを考えている

＜輸入鉄骨問題に関する今後の対応（情報収集）について＞

- ・当問題を品質問題として取扱うために、まずは情報を収集したい。

今は不確かな情報しかなく実態が分からない。裏付けを持って議論ができる材料が欲しい。

- ・欠陥のある物について、どこの物件、海外メーカーはどこ、誰が輸入したか、どんな欠陥があったか等の情報、場合によっては写真だけでもあると有効だと考えている。
- ・特定の物件について、その品質を追及することが目的ではなく、全体として輸入鉄骨の品質問題を顕在化させることが目的。
- ・どのような内容について情報収集を行うかということについては、執行部で検討し、後日書式等を発信する方向で進めたい。
- ・まずは、各支部で輸入鉄骨問題を共有化していただき、情報収集についての協力をお願いを行っていただきたい。
- ・但し、ゼネコン等との関係性を考えると慎重な扱いが求められる情報であり、だれからの情報であるかはもちろん、情報の非公開等、扱いは十分に注意する必要がある。
- ・当面はこの様な情報収集を行うことについても、対外的には発表せず、協会内部だけで行っていくこととする。

③ その他

i. 図面に関する説明動画について

図面問題の説明会時の動画を、来週3月24日週から全構協HPに公開する方向で準備している旨報告があった。

また、見積条件書の浸透度合い等のフォローについても検討する必要があるとの意見があった。

ii. 全構協事務局への入職者（異動）について

- ・2月20日付けで、総務部に木村課長が入職
- ・4月1日付けで、山田安彦さんが顧問として入職予定との報告があった。

iii. 品質管理責任者講習会対応スケジュールについて

品質管理責任者講習会関連のスケジュールについて事務局より説明があった。

- ・2025年度の講習会日程については、鉄骨技術者教育センターより、各組合に連絡済。
- ・2024年度受講済の構成員、2025年度受講予定の構成員、各々の一覧表を組合に対して、近々発信予定。
- ・4月11日の全国事務局長会議の場で、今後の予定、関連情報等について説明実施。

- ・その後、2025 年度受講予定の構成員に対して、実際の受講申込書を教育センターから送付予定。
- ・構成員については、1 社 1 名を原則として補助金が受けられることを含め詳細連絡について準備中。

(7) その他の定例報告事項

1) 構成員登録状況

本日現在の構成員数は、前回報告時(2 月 18 日)より 9 社減少し、2,136 社であること等が、議案書(p24-28)により報告された。

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

2024 年 4 月～2025 年 1 月の鉄骨推定所要量は前年比 93.3%となった。

3) 2025 年度主要会議日程

主要会議日程が、議案書(p30)により確認された。

4) 支部報告

〔九州〕

- ・九州でも手持工事量の減少、稼働率の低下が顕著になってきた。コストの上昇、人材の不足等の影響もあり、仕事が出せない環境になっていると認識している。価格については、今のところ大きな値崩れは起こっていない状況。
- ・図面の問題については、技術的な面を含め具体的な活動に落とし込んでいくとともに、今後に継承していくために活動を強化していきたいと考えている。

〔四国〕

- ・大きな変化なし。山積みは、徐々に薄くなってきている実感がある。
- ・加工賃も弱含みの状況。

〔中国〕

- ・市況については、他地域同様良くない状況が続いている。中国内の地域で見ると山陰は、仕事量は少ないながらも安定。一方、山陽は大きな物件もなく非常に厳しい状況。特に、Mグレード以下の事業者は厳しい。

〔近畿〕

- ・価格的には非常に厳しい状況。夏に向けて厳しい見通しを持っている。
- ・IR 物件には期待しているが、その他の物件は不透明。

〔中部〕

- ・手持工事量は、事業者毎に濃淡あるが、基本かなり薄いと認識している。
- ・先行きは不透明、単価もかなり安いものが出ている。
- ・中部支部と商社との懇談会も計画しており、準備を進めている。

〔北陸〕

- ・大きな変化なく、仕事が少ない状態。北陸3県で情報交換しながら、連携して価格維持に努めている状態。
- ・とにかく仕事が薄く、コスト上昇もあり、安値も出ている。

〔関東〕

- ・加工賃的には、他地域と比べて関東はかなり安い。仕事の量には、何とか確保している状態。

〔東北〕

- ・仕事は薄く、大変な状態。稼働率も低く、何とか凌いでいる。単価も弱含みで推移している。特に、東北は厳しいと感じている。
情報共有しながら何とか頑張っていきたい。

(8) 閉会の辞

以上をもって、審議事項、報告事項等、予定された事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以 上

(別 紙)

出席者名簿

会 長	永 井	毅
副 会 長	大 竹	良 明
〃	板 垣	昌 之
専務理事	小 貫	武
理 事	三 浦	隆 宏
〃	安 達	次 雄
〃	前 田	正 美
〃	稲 垣	法 信
〃	佐 野	勝 也
〃	妹 尾	一 人
〃	登 尾	昌 弘
〃	岩 永	洋 尚
理 事(相談役)	米 森	昭 夫
監 事	村 上	眞 樹
〃	吉 岡	晋 吾

理事総数 14名 うち出席者 13名 [欠席：竹原理事]
監事総数 2名 うち出席者 2名